

学術集会報告

主催 埼玉医科大学病院 リハビリテーション科

令和7年2月3日 於 埼玉医科大学毛呂山キャンパス 本部棟1階 第3講堂

攻めのリハビリテーション治療とその先へ

酒向 正春

(医療法人社団健育会 ねりま健育会病院)

2025年2月3日にねりま健育会病院、病院長の酒向正春先生を招聘し、「攻めのリハビリテーション治療とその先へ」についてご講演頂きました。

会の前半は、主に脳梗塞・脳出血後のリハビリテーションについて豊富な臨床系経験と画像診断を踏まえた内容でした。長期間リハビリを行っても改善に乏しい症例があります。CT画像所見で内包の障害がなければ、廃用の影響も考えられるため、7時から21時までの完全離床という、リハビリテーションを行っている関係者でも難しさを感じ

る内容でした。実際の多くの症例で運動機能や日常生活動作(ADL)の改善を示して頂きました。改めて、離床・患者さんを起こしていく基本的な事の重要性を感じました。

また、7時からの完全の離床のためには、睡眠導入剤の内服時間のコントロールや、医療現場で問題となっているポリファーマシーの問題も関係しています。これらの解決のためには、医師のトップダウンではなく、むしろ医師は逆三角形の一番下に位置するくらいで、療法士、看護師、薬剤師等の多職種連携での取り組みが大切とお話頂きました。

後半は、病院の中の取り組みだけではなく、リハビリテーションのための街づくりの内容でした。酒向先生は、行政等と連携をとり、初台リハビリテーション病院周辺の安全に24時間歩くことのできる歩行環境の整備を行い、また、同様に二子玉川駅周辺の環境整備、練馬区大泉学園での複合施設の設立に関わっています。これは、リハビリテーションは病院の中で訓練として行うことだけではなく、継続して行っていくためには、買い物やおしゃべりをしながら楽しく行うことが大切であると説明されました。実際に、整備される前後の写真をみせて頂きましたが、歩道の幅の広さ、夜間でも明るい歩道や緑化や休憩やイベントを行うスペース等、リハビリのためだけではなく、全ての人にとって有意義な取り組みとなっていました。これからのリハビリは病院のなかで完結するものではなく、街全体で取り組んいくものとなっているのだとご講演頂きました。

(文責 前田恭子)

